「Q-Uアンケートを活用した満足型学級集団の育成」

【研究のねらい】

・狛江市の「狛江の教育２１研究協力校」として平成２５度、２６年度の２年間にわたり研究を進めてきた。その成果を活かし、各教員が身につけた分析・活用方法を更に追求していく。

・さらなる満足型学級集団の育成と生徒理解を深める。

【研究推進母体】

校内研究推進委員会を研究の母体とする。

【研究の取り組み方法】

研究推進委員会で研究の方向性と具体的な取り組みを決定し、校内研修を通して全教員に周知し実践する。

【研究内容】

（１）**４月１日（水）　第１回研究推進委員会**

昨年度までの研究で成果を出した学級発足に向けての取り組みについて、研究推進委員会で確認し、全教員に周知するとともに、各教員の取り組みをサポートすることを確認した。また、４月・５月のスタートダッシュが、満足型学級を形成するには重要であると考え、取り組みの強化を図ることを話し合った。

〈４・５月の具体的な取り組み内容〉

１）　「学級の誇り」（学級目標）づくりへの取り組み

居心地の良いクラスにするための３つのルールを各クラスで話し合い、それを基に「学級の誇り」（学級目標）を決める。

⇩

「学級の誇り」のデザインを各クラスで考え、模造紙に描く。

２）　ルール確立への取り組み

全学年統一されたルールを徹底する。

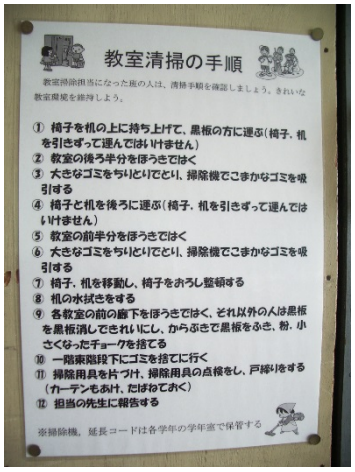
①　各教室の清掃方法の統一・・・清掃方法の掲示

②　授業規律の徹底・・・チャイム着席授業開始・終了のあいさつ

③　放課後活動の充実・・・行事への準備 ⇨ 居残り活動は 17 時まで

⇩

部活動時間の確保



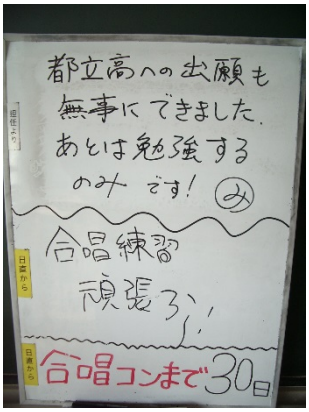
３）　リレーション確立への取り組み

全学級で実施する。

①　あいさつの強化

②　ホワイトボード：朝の一言

③　終学活：日直から一日の良かったことの報告



４）　校内研修会（生徒理解）

５）生徒総会で「学級の誇り」を発表し、その後教室に掲示する。

上記取り組みを、各学年の研究推進委員が中心に全教員で取り組む。

（２）**６月２３日（火）　第２回研究推進委員会**

第１回目のQ-Uアンケートの結果を受けて、分析の方法と今後の取り組みを協議した。特に今年度転入された教員に対して、ポイントを押さえて指導する事を確認した。また７月のコンサルティングに向けて、学級状況報告書・学級アセスメントシートの書き方について研修した。更に、各クラスで支援を要する生徒をピックアップし、その生徒に対する対応の仕方を協議し、校内研修会で全教員に周知することを決定した。また、「学級の誇り」の再確認を全クラスで行うことを決定した。

〈６・７月の具体的な取り組み〉

１）　第１回目のQ-Uアンケート実施

アンケート結果 満足型学級は８クラス中５クラス・・・・・出現率　６２．５％ 荒れ始め型学級は８クラス中３クラス・・・出現率　３７．５％

２）　校内研修会（合同分析会・結果の共有・取り組みの確認）

合同の分析会では、研究推進委員が中心となり、分析の方法を各教員に指導すた。また、支援を必要とする生徒の今後の対応について、各学年の研究推進委員及び担任が発表した。

３）　「学級の誇り」のふり返り

各学級で、「学級の誇り」の３つのルールについて、生徒一人一人がふり返りを行い、ひまわりの花の部分に自分の名前とふり返りの内容を記入しクラスに掲示した。（全クラスひまわりのデザインに統一し、各クラスの台紙をイラスト手芸部が担当した）

４）　校内研修会（講師による学級経営コンサルティング）

学級経営コンサルティングを受ける前に、研究推進委員は、各担任に学級状況報告書の作成方法を指導した。さらに各学年会において、学級アセスメントシート作成時にも、研究推進委員が中心となり進めた。

（３）８月２７日（木）　第３回研究推進委員会

２学期のスタートにあたり、１学期同様にルールの徹底、リレーション確立の再確認を行った。また、支援が必要な生徒への対応の再確認を行った。

〈８・１０月の具体的な取り組み〉

１）　校内研修会（２学期指導の取り組み確認・方向性を示唆）

第３回目の研究推進委員会で再確認されたことを、校内研修会で全教員に周知した。

２）　校内研修会（２回目のQ-Uアンケート実施に向けての取り組み確認）

（４）１１月２４日（火）　第４回研究推進委員会

第２回目のQ-Uアンケートの結果を受けて、１回目と比較しながら分析検討し、今

後の取り組み方法を確認した。

１クラスが満足型学級からかたさ型学級になった。しかしこのクラスのルールは徹底されており、再び満足型学級に戻ると判断した。更に荒れ始め型学級が減ったことで、今までの取り組みに間違いは無く、今後も同様に取り組みを継続していく事を確認した。

〈１１・１２月の具体的な取り組み〉

１）　第２回Q-Uアンケート実施

アンケート結果

満足型学級は８クラス中４クラス・・・・・出現率　５０％

荒れ始め型学級は８クラス中２クラス・・・出現率　２５％

ゆるみ型学級は８クラス中１クラス・・・・出現率　１２．５％

かたさ型学級は８クラス中１クラス・・・・出現率　１２．５％

２）　校内研修会（学年毎の分析、結果の共有・取り組みの確認）

Q-Uアンケートの分析、及び１２月の第２回目のコンサルティングに向けての学級アセスメントシートの作成を研究推進委員が中心となり各学年で行った。また、その結果を全体会で共有した。

研究推進委員会

１年分科会

２年分科会

３年分科会

３）　校内研修会（第２回目の講師による学級経営コンサルティング）

（５）**２月１７日（水）　第５回研究推進委員会**

校内研修会の牽引役となり進めてきた研究推進委員会の１年間のまとめを行った。

【成果と課題】

（１）成果

１）　研究発表の翌年で、どちらかというと発表の年で終わりという状況が生まれやすいのだが、研究推進委員会が中心となり、発表内容を継続発展することができた。

２）　年度当初の「ルール確立への取り組み」、「リレーション確立への取り組み」、「学級の誇りつくり」について、研究推進委員会で昨年度の方法を再検討し、その後、校内研修会の各学年部会で研究推進委員が中心となり取り組めたことで、各学年の牽引役となり、全教員の足並みをそろえることができた。その結果、１回目のQ-Uアンケートでは、実に８クラス中５クラスで満足型学級集団となった。

　また、２学期からのくり返しの取り組を行った結果、２回目のQ-Uアンケートでは、満足型学級集団が８クラス中４クラスになり、１クラスが減ったが、その１クラスもかたさ型学級であり、再び満足型学級に戻ると確信している。更に、２回目では荒れ始め型学級が１クラス減となった。この結果からも、研究推進委員会が中心となり、学校全体に働きかけたことは大きな成果であった。

３）　今年度転入してきた教員に対して、Q-Uアンケートの結果の分析・活用方法を組織的に教授することができた。

４）　校内研修を行う直前に、研究推進委員会を開いたことで、校内研修会の目的と具体的に取り組む内容を明確にすることができた。

（２）課題

１）　全学級を満足型学級にするためには、全教員の共通認識による取り組みが必要不可欠である。今回は、研究推進委員会が牽引役となり研修を進めていたが、今後は全教員が時には牽引役となり、時にはサポート役となることが必要である。